

うたごえ新聞

11/17

(1986年)

NO. 1133

THE SINGING VOICE OF JAPAN

日本のうたごえ全国協議会機関紙
うたごえ新聞社
〒160 東京都新宿区大久保2-16-36
☎ 03 (209) 0638 FAX 03 (200) 0105
振替口座 東京2-5631 毎週月曜日発行
1部120円(〒25円)・月480円(〒120円)



スポット この人に

NHK朝の連続テレビ小説として、合唱組曲「川よとわ」は「はね駒」のテーマミュージックに美しくPART II(5章)「川よとわに美しく」20分を作曲。
十一月二日、会場の埼玉会館大ホールを埋め、流れるドアカデミー賞の作曲家・三枝成章氏。最近テレビのキヤスターもつとめるなど幅広い活躍。
この三枝氏が埼玉合唱団の二十五周年演奏会の委嘱作品
(三輪純永記者)



20年、あたたためつづけた レクイエム

初演を終えて、三枝氏は開口「ほぼイメージに近い演奏でした」とまは及第。
「川よとわに美しく」はPART IIと同じく五章から成る合唱曲がある。
「僕はつづいてPART IIIもつくりたいんですよ。全体を十五曲で構成し、その中のどれをとっても演奏でき、またつなげて構成してもいい、そんなものに仕上げたいんですよ。実はPART IIの次に、IIを創りたいと思っていた折、今年の初め埼玉合唱団の方からお話があり、僕にとってもラッキーでした」。

五年前、広島の男声合唱団から広島をテーマにした作品を、と依頼された時、題材を探している中で米田栄作とい

一人の詩人を知る。
80篇からなる詩集をもとに

悲愴な原爆体験に基づいた詩は、だがしかし、直接的な表現ではなく、とてもきれいなに魅せられたという。
さっそく米田氏を尋ねてみると、原爆で家族全部を亡くしたという体験を持つ人だった。この一筋にこんな詩がある。

「『琴野飯』
明るすぎるほど明るい初夏の夕暮の夕を
きよもきのうのように
戸外へ呼んでみた
むなしい風景を
ひとりながめて
もう蚊群がわんわん
厨の破れ戸をあけつぼなし
その向こうは虚墟の町がまだ
まだ明るい夕映え空で
その向こうにまる見えの山脈
が夕映えで

「『川よとわに美しくPART II』の中の
一節にこんな詩がある。
「『琴野飯』
明るすぎるほど明るい初夏の夕暮の夕を
きよもきのうのように
戸外へ呼んでみた
むなしい風景を
ひとりながめて
もう蚊群がわんわん
厨の破れ戸をあけつぼなし
その向こうは虚墟の町がまだ
まだ明るい夕映え空で
その向こうにまる見えの山脈
が夕映えで

埼玉合唱団創立25周年演奏会に「川よとわに美しく Part II」を作曲した



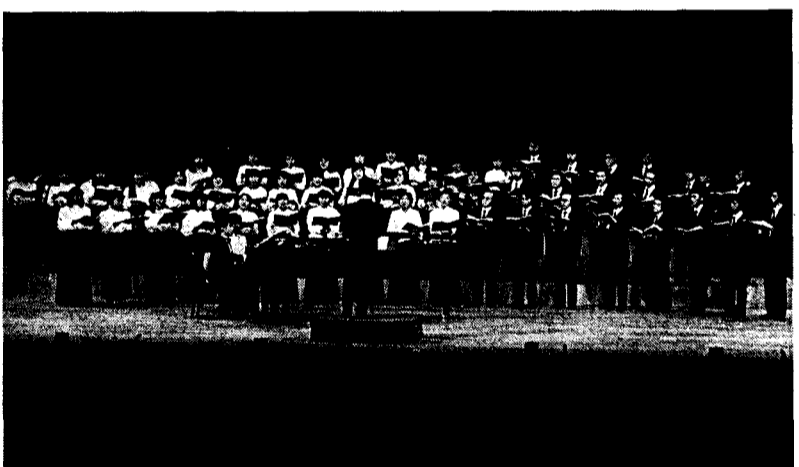
三枝成章さん さえくさしげあき

86日本のうたごえ 祭典 開催迫る

愛知 知部 祭典 開催迫る
関連6~8面

「第二次大戦の戦没者の手紙を基にレクイエムを創ろうと二十年前から思っていたんですよ。それがこの『川よとわ』に変わったようですね」と語る三枝氏。平和への着眼のしたたかさを感じさせる。

「合唱は言葉より響き」
この「川よとわPART II」は合唱団や界のうたごえ協議会でも来年の祭典にむけて、普及していく方向であるが、そのためには、いくら手直しを加えたいという三枝氏。プロの合唱団にも曲を書くが、「今、合唱においては、間違いないアマの方がうまい。とくに高校生や大学生の合唱団のレベルは高い」という。



▲来年の、日本のうたごえ祭典埼玉開催にむけて胎動が始まった。(『川よとわに美しくPART II』初演=11月2日)

今週の記事

- ◆郵便のうたごえ祭典、電通のうた
- ◆ごえ祭典 3面、視点一サークル・合唱団を訪ねて、再
- ◆建2年で会員10倍化した青梅、麦
- ◆笛、4面、笠木透とフォークス 5面
- ◆〈ぞうれっしゃがやってきた〉全
- ◆国から反響 6・7面、地図の中からこん
- ◆には、名古屋大学男声合唱団 8面

★おこわり★
今号以降、年内の本紙紙面は日本のうたごえ祭典報道の関係で、通常紙面を變更することがあります。あらかじめ御了解をお願いします。
うたごえ新聞社

「ただ違うのは仕上げの時間の問題。アマが三ヶ月くらいかかることをプロならば一日、二日で仕上げるといっていい。仕上げはどうかと、それに驚かされた。」「合唱で、こぼれを大切に」といふ時代は終わった」といふ一言である。
「つづいて「合唱になったらことばなんか聞きとれないんじゃないですか。中喜直さんのような年代の人からいって、

「合唱は言葉より響き」
この「川よとわPART II」は合唱団や界のうたごえ協議会でも来年の祭典にむけて、普及していく方向であるが、そのためには、いくら手直しを加えたいという三枝氏。プロの合唱団にも曲を書くが、「今、合唱においては、間違いないアマの方がうまい。とくに高校生や大学生の合唱団のレベルは高い」という。

労働者協同組合の活動は「労働現場からの人間宣言」の本に詳しいが、その中に福岡県・大牟田の、給食センターの例がある。
大牟田はかつて炭鉱で栄えた町だが閉山と「合理化」で、今や若者の雇用は場はなく、高齢者人口は全国平均をはるかに上回る。一人暮らしの老人が多い。この一人暮らし老人に毎食ごとに食事を用意するのが給食センターである。給食を通じて老人たちの心をつなぎ、町の再生をめざす中心に、全日自労大牟田合唱団のメンバーも携わっている。

ふめんだい

全日自労から派生した事業団が、正式に労働者協同組合として発足し一般からも注目されている。
高齢者や障害者、派遣・下請労働者などの雇用確保を目的に生まれたが、今では労働者自身が自主管理する経営体として、雇用と地域づくりの両面から地歩を固めている。